『早稲田大学図書館紀要』第66号（2019年３月）

利用者は図書館のラーニング・コモンズに何を求めるのか

―中央図書館改修に向けた利用者インタビュー調査報告―

稲　葉　直　也
ティムソン　ジョウナス
湯　川　亜　矢

はじめに

本稿は、2016年度に中央図書館の利用者10名に対して実施した、利用者インタビュー調査の結果を報告するものである。本調査の分担は、調査設計は著者のうち稲葉とティムソン、インタビュー調査の実施は著者全員、調査結果の記録作成と取りまとめをティムソンと湯川、既に行った他の利用者調査も含めた分析と総括は稲葉が担当した。

Ⅰ．調査の背景

Ａ．中央図書館改修に向けた利用者調査実施の背景

中央図書館のラーニング・コモンズの機能を強化するため、2018年８月から2019年３月にかけて、２階と３階を改修することになった(1)。今回のように既に多数の利用者が存在する大学図書館を改修してラーニング・コモンズを設置する場合と、新たな施設として開設する場合とでは、ラーニング・コモンズに求められる要素は異なるはずである。そのため本改修計画の策定にあたっては、既存の利用者が中央図書館におけるラーニング・コモンズに何を求めるのか、ユーザー志向の検討を行う必要があった。こ

の検討に向け、利用者の利用実態やニーズを多角的に把握するため、１）観察調査による中央図書館内利用量調査、２）利用者の中央図書館に対する選好、利用の決め手となる要素や環境を明らかにするための利用者アンケート調査を利用者支援課にて実施し、既にこれらの調査結果は本誌において公表している[(2)(3)]。

一つ目の観察調査は、館内利用量という指標を用いることで、入館者数や貸出冊数といった既存の指標には表れない、図書館内の多様な利用実態を量的に把握し、館内利用傾向を分析した[(2)]。一方で、観察調査による量的なデータだけでは、利用者の主観的な意識や認識までは把握できない。この観察調査を補うため二つ目の利用者アンケート調査を実施し、利用者の図書館利用に関する意見を収集し、図書館が好まれる主要な要素を特定した。しかし、この調査の考察として、質的調査の手法を用いて利用者の声をさらに分析する必要性が指摘された[(3)]。そのため、既往調査を補完する三つ目の調査として、利用者が図書館のラーニング・コモンズに何を求めるのか、より具体的な中央図書館の空間や什器への選好を明らかにすることを目的とし、館内利用を質的に調査する利用者インタビュー調査を行うこととした。

Ｂ．館内利用を質的に調査する試み

図書館利用を質的に調査・分析する際、インタビュー調査はよく用いられる手法の一つである。大学図書館利用者の行動をインタビュー調査によって明らかにした近年の事例として、千葉大学附属図書館のラーニング・コモンズを含む新しい図書館の環境を、学生がどのように利用し、行動しているのかをフォーカス・グループ・インタビューを用いて分析した谷奈穂らによる研究がある[(4)]。谷らは、“対象者に直接話を聞くことがない質問紙調査や観察法のみによる調査では、調査者側が認識した利用方法のみに注目しがちとなり、対象者の認識を正確に把握することは難しい”[(4)]と指摘し、その一方でインタビュー調査は“対象者自身の発言から、

彼らの実際の行動や空間の使い方、新しい環境についてどのような考えを持っているのかを分析できる”[(4)]としている。この問題認識は、観察調査とアンケート調査を補完し、利用者の声をさらに分析するためインタビュー調査を実施する筆者らの認識と一致していた。

Ⅱ．調査概要

A．インタビュー調査設計

いくつかあるインタビュー形式のうち、本調査には半構造化インタビューを採用することにした[(5)]。既に実施した利用者アンケート調査結果を補完する目的もあったことから、既存アンケートに従って質問事項を定め、参加者の発言に応じて詳細をたずねる形式が望ましいと判断した。調査者が参加者に質問を投げ掛けるとともに、発話のきっかけとして、まず選択肢から回答を選んでもらい、続いて回答の理由を話してもらう形式でインタビューを展開することとした。

次に、質問事項をまとめたインタビューシートを作成した。インタビューでは、アンケート調査でもたずねた中央図書館の利用に関する設問に加え、大学での日常の学習について、授業でどのような課題が出され、課題に応じてどのような学習をしているのか、また学習に利用している施設と情報源をたずねた。加えてラーニング・コモンズが求められる要因であるアクティブ・ラーニングについて、実際に授業でそういった学習スタイルを求められているのか、またそのための施設を図書館に設置することに関する考えをたずねた。質問事項の詳細は、参考資料としてインタビューシートを本稿末尾に示す。

B．インタビュー調査対象

インタビュー調査は、中央図書館をよく利用し様々な意見を持っていると期待できる、中央図書館有償学生スタッフ[(6)]、学生ボランティアスタッ

フLIVS[7]のメンバーに対して行うことにした。それぞれのメンバーに調査趣旨を伝え、インタビューへの協力を呼び掛けたところ、第１表の通り学生スタッフから３名、LIVSから７名、協力の申し出があり、この10名を対象にインタビューを実施した。このうち日程が合ったｄとｅのメンバーは、グループ・インタビューの形式で調査を行うことにした。

第１表　調査対象者の詳細

	略称	所属・学年（当時）	図書館の利用頻度	インタビュー調査日	備考
a	大学院生Ａ	政治学研究科修士２年	月に１－２回	2017年１月31日	学生スタッフ
b	大学院生Ｂ	文学研究科修士１年	週に２－３回	2017年２月１日	学生スタッフ
c	大学院生Ｃ	法務研究科２年	週に４－５回	2017年２月３日	学生スタッフ
d	学部学生Ａ	文化構想学部１年	週に２－３回	2017年２月24日	LIVS
	学部学生Ｂ	文学部２年	週に４－５回	2017年２月24日	LIVS
	学部学生Ｃ	人間科学部３年	週に２－３回	2017年２月24日	LIVS
e	大学院生Ｄ	教育学研究科博士３年	週に２－３回	2017年２月28日	LIVS
	学部学生Ｄ	文学部２年	週に４－５回	2017年２月28日	LIVS
	学部学生Ｅ	文学部４年	週に４－５回	2017年２月28日	LIVS
	学部学生Ｆ	教育学部２年	週に２－３回	2017年２月28日	LIVS

Ｃ．インタビュー調査の実施

インタビューは、第１表に示した調査日に、５回に分けて実施した。時間は１時間としたが、グループ・インタビューとなったｄとｅは１時間半とした。いずれのインタビューも、発言が改修の検討に利用・公表される可能性があることを参加者に説明し、全員からの同意を得てICレコーダーに録音し、後の記録作業の参考にした。調査者は著者ら３名で分担し、１回のインタビューにつき最低でも２名が参加し、１名が司会と進行、他が記録と司会の補助の役割を担った。記録は、質問事項ごとに発言者の発言をまとめ、提示した選択肢のうちどれに関する内容かラベル付けを行った。

Ⅲ．調査結果

本章では、インタビュー調査結果を質問ごとに発言を示しながら記述する。インタビューの発言は、前後一行を改行のうえ行頭を下げてブロック引用で示すが、比較的短い発言は“　”で文中に示す。発言内の（　）は、記録者による補足・解釈である。発言者は、誰の発言かわからないよう示していない。

Ａ．大学での学習について

１　普段、授業でどういう課題が出ているのか、またそれについてどういう学習方法をしているのか

まず、質問に対する選択肢からあてはまるものをすべて挙げてもらい、その後詳細をたずねた。

第２表　普段、授業でどういう課題が出ているのか
（複数選択可）（n＝10）

	選択肢	得票数	得票率
1	授業の予習・復習	7	70.0%
2	レポート・論文作成	9	90.0%
3	試験	7	70.0%
4	発表・プレゼンテーション	10	100.0%
5	その他の調査や研究	2	20.0%
6	その他	1	10.0%

第２表に選択肢と得票数を示したが、この結果から、様々な課題が満遍なく出されていることがうかがえた。次の発言からは、課題の内容に応じた学習方法を採っていることが読み取れる。

授業によって千差万別だが、１から４は全部ある。１の予習は、プリントを読むなど軽いものから、指定された図書を読む形まで。復習は、

プリントや授業の内容を振り返ることが多いので、新しく資料を読むことはない。2は図書館に来て必要な資料を集め、読んでレポートをまとめる。3は授業の復習とほとんど同じ。4はレポート・論文作成とやることは同じ。文字で起こすかスライドを作るかの違いだけ。図書館に来て必要な資料を集め、PCを使って作成する。

発表・プレゼンテーションは、アクティブ・ラーニングが特に求められる課題と思われたが、上述の発言からは、アウトプットの形が異なるだけでレポート作成と作業は変わらないと示唆されている。また、グループによる発表・プレゼンテーションについては、次の発言があった。

たまに発表・プレゼンテーションでグループでの課題もあるが、個人で作業したものを持ち寄って意見交換するくらいが多いので、結果としては個人ワークの時間が長い。

グループでの課題であっても、個人ワークの延長として取り組まれるものが多く、「対話型、問題発見・解決型教育」[(8)]を想起させる、グループ学習や仲間との議論を伴う課題はあまり多くないとうかがえる。もちろん、グループで発表やプレゼンテーションに取り組んだ例も数は少ないが見られ、その際には学内ラーニング・コモンズであるW Space[(9)]など、集まって議論や会話ができるスペースが活用されている。

グループで発表をする課題が、1年の時も2年の時も何回かあった。W Spaceなどで集まって、話し合いながらスライドを作るなど、プレゼンテーションの準備をした。

しかし、大勢としては、学内の施設を用いてグループで議論をし、発表の準備をするような課題への取り組みは多くないことがうかがえた。

2　普段、授業期間中に学習する時間が長い場所はどこか、また、それはなぜか

次に、授業期間中に長く学習をする場所をたずね、質問に対する選択肢と得票数を第３表に示した。

第３表　普段、授業期間中に学習する時間が長い場所はどこか
（複数選択可）（n＝10）

		選択肢	得票数	得票率
１大学内の施設	1-1	図書館・読書室	8	80.0%
	1-2	W Space	1	10.0%
	1-3	コンピュータルーム	3	30.0%
	1-4	サークルの部室・たまり場	2	20.0%
	1-5	所属研究室	1	10.0%
	1-6	学部・研究科の自習スペース	5	50.0%
	1-7	空き教室	1	10.0%
	1-8	学内の飲食施設	1	10.0%
	1-9	その他	0	0.0%
２大学外の施設	2-1	自宅	7	70.0%
	2-2	公共図書館	0	0.0%
	2-3	友人の家	0	0.0%
	2-4	学外の飲食施設	2	20.0%
	2-5	その他	0	0.0%

大学外では主に自宅が学習場所として選ばれているが、“あまり（図書館は）使っていなくて、家でやることが多い。家の方が落ち着くし、好きな時に別なことをしたり食べたり飲んだり自由にできる”というように学習場所として好む意見と、“自宅で勉強しているが、自宅だと、だらけてしまうことが多い”というように、そうではない意見に二分される。“アウトプット（作る作業）だけに絞ると自宅の方が多い。レポートを書くのは自宅。アウトプットが自宅が多いのは落ち着くから。こもってやりたい

時は家でやる”というように、行う作業によって大学と自宅を使い分けているという発言もあった。

大学外に比べ、大学内は比較的様々な場所が学習場所として選ばれているが、本調査対象は図書館のヘビーユーザーが多いこともあり、大半が図書館・図書室を学習場所として選択していた。その中で、図書館を選好する理由は多岐に渡っている。まず、“参考資料を見たい時、すぐそばに本棚があるのがよい”や、“学習内容として文献なしには成り立たないので、図書館はとても便利で使うことが多い”といった発言のように、「学習に必要な資料」が利用できることが好まれている。“大学内の施設で一番使うのは図書館で、文献を見つける、インプットの作業が長い”という発言からもわかるように、図書館は学習に必要な「知識獲得・インプット」の場として認識がされていた。

次に、“図書館という環境だと集中できるので、できるだけ図書館で勉強するようにしている”や、“試験勉強は、場所は問わないが、図書館だと集中できる”といった発言から、集中して学習ができる「静謐な環境」が好まれていることもわかる。先の調査で、「静かに集中して学習ができる」という図書館の環境は他の学内施設では替え難い点と見出したが[(3)]、その結果を裏付けるものである。

また、先の調査では、図書館は雰囲気が良く、居心地の良い場所として好まれている傾向もうかがえたが[(3)]、図書館を学内で落ち着くことができる居場所として捉えている次のような発言も見られた。

> 自習室がピリピリしている雰囲気で「逃げたいな」と感じる時や自分のペースで勉強したい時、必要な資料が全部手元に用意してあって落ち着いて取り組みたい時は、図書館を主に使う。

このように図書館が果たしている他の施設では代替できない機能は、図書館におけるラーニング・コモンズを検討する際にも欠くべきではないだ

ろう。

一方で、大学院生には、所属院生に特化して利用しやすい環境が整えられている学部・研究科の自習スペースが学内の主な学習場所として認識されている。

> 学校に来たらそこ（研究科自習室）を一日（自分の）部屋のように、拠点として使う。静かすぎると勉強がはかどらないので、人と話すわけではないが、周りに雑談をしている人がいる自習室が好み。

> プリンタやPCがあり、大学院生が利用できるロッカーが近くにあるので便利。ゼミの仲間と問題について教え合ったり、何人かで議論したり話しあったりする時は（グループで利用できる）自習スペースを使う。

また、学部学生にはサークルの部室を使っているという発言もあった。

> 第二外国語の暗記テストの練習など、声を出す必要がある時は、学生会館にあるサークルの部室でやっている。（中略）授業の話などを人にしたくて来る人もいる。学部が違うとやっていることも違うので、勉強の話をしたりするのも面白くて、そのために来ている人もいる。

学部・研究科の自習スペースやサークルの部室を好む発言からは、周りに人がいることがむしろ好ましく、必要に応じて話ができ、他者の学習の様子から気付きを得られる環境が好まれているとわかる。このような要素は、従来の図書館にはない点であろう。これに関連して、グループでの対話や議論について次の発言があった。

> 滅多にないがグループでの作業をする時は学内の飲食施設、具体的に

は戸山カフェテリアを使っている。激論になるような話題の時には図書館内のグループ学習室を使うが、軽く意見を交換する、ご飯を食べながら進め方を相談するなど、片手間の時にはカフェテリアを利用する。

一口に対話や議論と言っても質の差があり、軽い意見交換の時と、集中して激論になる時に利用する場は異なると指摘し、図書館は「激論になるような」集中した議論に適した施設と認識されている。これは先の観察調査で、図書館におけるラーニング・コモンズはただグループ利用率や発話率が高い賑やかな空間とは異なり、図書館のアカデミックな雰囲気のもと、調査・研究課題に対するグループによる熟議が行われる空間とすべきだと考察したことと一致する[(2)]。

3　授業の課題に取り組む時に必要な情報をどこから得ているか

続いて、授業の課題に取り組む時に必要な情報をどこから得ているかをたずね、この質問に対する選択肢と得票数を第４表に示した。

１と２はインターネット上の情報、３から６は紙媒体の資料、７はデータベース、８から12は人であるが、次の発言にあるように、これらの情報源は複合的に、用途ごとに使い分けられていることがわかった。

１、２でとりあえず検索してさわりを頭に入れておいて、そこから６があれば先にそれを見て、５、７でじっくり深く調べる。３、12はあまり使わないが、卒業論文を書く際、もうちょっと深く調べるために古書店で関係のある本を買ってみたり、レファレンスサービスを利用した。指定された教科書があれば生協に行って買う。参考文献はまず図書館で探す。

インターネット上の情報については、慎重にその内容を吟味したうえで、

第４表　授業の課題に取り組む時に必要な情報をどこから得ているか（複数選択可）（n＝10）

	選択肢	得票数	得票率
1	ウェブページ	8	80.0%
2	ウィキペディア	4	40.0%
3	自分で買った本／雑誌等の資料	5	50.0%
4	友人・知人から借りた本／雑誌等の資料	1	10.0%
5	図書館の本／雑誌等の資料	9	90.0%
6	授業のテキストや配付された資料	9	90.0%
7	図書館のデータベース	7	70.0%
8	家族／友人	2	20.0%
9	大学のクラスメイト	0	0.0%
10	大学の先輩	1	10.0%
11	教員	3	30.0%
12	図書館員	1	10.0%
13	その他	1	10.0%

適切な範囲で利用されていることがうかがえる。

> できるだけ信頼のおけるウェブページから情報を得たいが、すぐに自分で見つけられなかった時は、ウィキペディアの力を借りてみて、方向性を得たり、キーワードを探したうえで、もう一度ウェブページをあたってみるようにしている。

紙媒体の資料は、授業のテキストや配付された資料がまず利用され、必要に応じ図書館資料が利用されることが多い。図書館を使うか自身で購入するかは、手元に残すべき資料かどうか、あるいは図書館でしか利用できない古い資料なのかなど、場合によって判断がされていることがうかがえた。

入門書等はなるべく図書館のものを利用している。長く使うことが前提の本、書き込みをしたい本等は自分で買うが、値段が高い本、出版年が古い本、版が指定されている本などは図書館の本を利用するようにしている。

これらの情報源に比べ、学習において人はあまり頼られる情報源とはなっていないようであった。

（人からの情報は）信用できないこともあるのであまり参考にしない。教員や図書館員なら違うが、自分と同じレベルの人だと勘違いしていることも多い。うっかり信じて失敗するのは嫌なので、自分で文献やちゃんとしたデータに当たりたい。人と会うのはエネルギーを使うということもある。授業でたまたま会うのならよいが、そのことに詳しい人が同じクラスに必ずいるとは限らない。

教員とはあまり絡むことがなく、授業前後の時間で質問をしたり、オフィスアワーの時間を利用したり、メールで質問したりはできるが、常に相談できるような開けた感じではない。

人から情報を得ることについては、信用がおけるかどうかに加え、そもそも情報を持つ人に出会えるかどうかが難しい。教員は気軽に相談ができる状況にないという発言のほか、大学院生からは、“特に大学院に進んでからは、教員よりも自分の方が詳しいことがある”、“データベースなどは教員よりも学生の方がよく使っていて詳しかったりする”といった発言もあった。

一方で、“同じような研究分野で同じようなソフトを使っている先輩にわからないことを聞く人もいる”、“同じ関心を持っている先輩から、授業の話や、こんなことをするといい、こんな本を読んでいるという話を聞く

ことがある”など、友人や先輩といった身近な人から有益な情報がもたらされることも多い。こういった人からの情報収集が容易かつ積極的に行える場として、ラーニング・コモンズに人が集い交流を図ることができるよう機能すれば、その意味は大きいだろう。

B．中央図書館の利用について

1　普段、中央図書館をどのような用途で利用しているか。具体的にどのような利用をしているのか、あるいは、あまり利用しない理由

ここまでの質問と同様に、選択肢を参加者に提示し、あてはまるものすべてを挙げてもらった後に、その詳細をたずねた。第５表に提示した選択肢とそれぞれの得票数を示した。

第５表　普段、中央図書館をどのような用途で利用しているか
（複数選択可）（n＝10）

	選択肢	得票数	得票率
1	資料の利用	10	100.0%
2	資料を借りる	10	100.0%
3	電子ジャーナルやデータベースの利用	4	40.0%
4	授業の予習・復習	5	50.0%
5	レポート、論文作成	6	60.0%
6	期末試験等の勉強	4	40.0%
7	資格試験等の受験勉強	2	20.0%
8	その他の調査や研究	3	30.0%
9	備付インターネット PC の利用	3	30.0%
10	グループ学習・ディスカッション	0	0.0%
11	図書館員に質問・相談する	2	20.0%
12	空き時間を過ごす	6	60.0%
13	その他	0	0.0%
14	あまり使わない	0	0.0%

まず、１、２の図書館資料の利用が主たる用途とわかる。資料の利用のパターンは、目的の資料だけを入手する立ち寄り型利用と、資料を活用した学習も行う滞在型利用に大別できる。“借りる資料を決めてから、目的を持って図書館にくる。うろうろすることはない”や、“中央図書館に来る一番の理由は必要な資料がそこにしかないからなので、長時間いることはあまりない”といった発言が立ち寄り型利用の一例である。滞在型利用は、“事前に自宅などでWINEを検索しておき、研究書庫で必要な本を取って２階のグリーンゾーン[10]に行き、レポートを書くというのが通常のパターン”といった発言のように、資料を館内の気に入った場所で利用し、作業もそのまま行うものである。

滞在型利用には、資料の利用の有無に関わらず、ただ静かで集中できる学習場所としての利用もある。“週１回、２限と５限に早稲田キャンパスでの授業を取っているので、その間に映画を見たり、自習をしたりしている”といった発言のように空き時間を過ごす場所として、また“わざわざ戸山キャンパスから図書館で時間を過ごすためだけに空きコマに中央図書館に来ることもある。いろいろな本に囲まれて過ごしたいので、地下書庫に行ってあてもなくうろうろしたりしている”の発言のように、とにかく図書館という空間が好まれて滞在されることもある。

得票数は０であったグループ学習・ディスカッションについては、“（中央図書館は）10以外全部（の用途で利用する）。10がないのは、グループ・ワークの機会はないこともないが、たまたまチームに忙しい人が多い、一緒にやらなくてもいいという意見の人がいたため”や、“以前は10もあったが、W Spaceができてからそこを使うことが多くなった”などの言及があった。

２　中央図書館内で特に気に入っている場所や施設

次に、中央図書館内で特に気に入っている場所や施設を、第６表に示した選択肢から選んでもらい、その理由をたずねた。１と２、９と10は、選

択肢の文言は同じだが、それぞれの数字はインタビューシートに示した館内マップ上の数字と対応しており、別の場所を意味している[11]。

第６表　中央図書館内で特に気に入っている場所や施設
（複数選択可）（n＝10）

	選択肢	得票数	得票率
1	２階閲覧席（ブルー）	2	20.0%
2	２階閲覧席（ブルー）	2	20.0%
3	２階閲覧席（グリーン）	5	50.0%
4	学習コーナー	2	20.0%
5	２階グループ学習室Ａ	0	0.0%
6	２階グループ学習室Ｂ	0	0.0%
7	３階グループ学習室Ｃ	0	0.0%
8	３階閲覧席（ブルー）	1	10.0%
9	３階閲覧席（グリーン）	3	30.0%
10	３階閲覧席（グリーン）	0	0.0%
11	新聞・雑誌コーナー	0	0.0%
12	バックナンバー書庫	2	20.0%
13	特別資料室	0	0.0%
14	AV ルーム	2	20.0%
15	複写・マイクロ資料室	0	0.0%
16	４階図書館ラウンジ	1	10.0%
17	１階研究書庫 閲覧室	0	0.0%
18	地下１・２階 閲覧個室	0	0.0%
19	地下１・２階研究書庫閲覧席	4	40.0%
20	その他	2	20.0%

インタビューの結果からは、各々に気に入っている閲覧席や施設があり、特定の場所が選ばれて利用されることがわかった。“いつも３の「２階閲覧席（グリーン）」にしか行かない。理由はPCを使いたいこと、階段を上らなくてよいので、歩いていって席が空いていればそこに座る”や、

“ちょっとした空き時間に来た時や、人に会う用事がある時などは、すぐに外に出られるように入口近くを使うことが多い”、“4はPCが置いてあって便利なので使う。特にグループで作業しなければならない時は、グループで学習できてPCが常設されているのは唯一ここくらいなので助かっている”など、自身の用途と施設の機能に合わせ、よく使う場所が決められていた。

特に閲覧席は、よく使う資料に近い席、利用者自身の資料への選好がそのまま図書館で気に入っている場所に繋がっていることが、次の発言からうかがえる。

> 「バックナンバー書庫」は授業の課題に必要でよく使うが、過去の新聞など、実際の紙面を見られるのが面白くて気に入っている。「研究書庫」（閲覧室ではなく書庫自体）は古い資料も見られるので好き。どちらも本屋さんでは見られない、図書館らしい独特の資料がある。

> 資料に一番近い席を利用している。ものぐさなのであまり移動したくない。地下なら閲覧個室を借りることもあるが、大抵は資料に一番近い席で1時間くらい見て帰る。

> 3はPCが使えるのと、人文系のフロアであること、辞書など参考図書の内容をPCに入れたくて中央図書館に来ることが多いので、参考図書の運搬が楽なので利用している。

また、PCを使うためグリーンゾーンを選ぶという意見もある一方で、“PCの音がすると落ち着かないので、3のグリーンゾーンではなく2のブルーゾーンの席を使っている”という意見もあり、機器の利用可否なども含め、様々な用途に合わせたゾーニングを適切な配分で設け、個々の利用行動や環境への選好に多様に応じられるようにする必要性が示唆されていた。

3　こうであれば図書館に行きたくなる、もっと居心地がよくなるというイメージは。また、具体的に設備や環境をこうしてほしいという要望

この質問には特に選択肢は示さず、自由に発言をしてもらった。発言内容をまとめ、おおよその内容から、「発話環境について」、「閲覧席について」、「照明について」、「喫食環境について」、「その他の要望」の６つのカテゴリに分け、代表的な発言を「・」で箇条書きにして紹介する。

【発話環境について】

発話ができる学習コーナーでほとんど発話利用がされていない現状に関する発言、どのようにすれば発話が促されラーニング・コモンズのように機能するのか、意見があった。

- 図書館は静かすぎて緊張感があり、話してよいゾーンであっても小声で話してしまう。申し訳なさがあり話しにくい。厳かな雰囲気は図書館らしくてよいが、話してよいゾーンはメリハリをつけてもう少し大声で話せる雰囲気だとよい。
- 学習コーナーはしゃべりにくい雰囲気がある。レファレンスカウンターや貸出カウンターに囲まれていて、あそこでは闊達に議論しにくいのではないか。学習コーナーは場所がよくないので、ブルーゾーンにして、その先のブルーゾーンを話してよいゾーンにしてはどうか。
- （発話を促すのであれば）パーティションを高くして、密閉感があるとよい。学習コーナー以外のオレンジゾーンにもパーティションがあるとよい。

【閲覧席について】

閲覧席の座席、テーブル等について、より利活用しやすくする工夫、また長時間の滞在利用に耐えうるもの、快適に利用できるものを要望する意見があった。

- 塾の自習室のように個別の仕切りがあるスペースの中で勉強することに

慣れた人が多く、個別のスペースが先に埋まったり、一つ置きに座ったりするのではないか。個別の席だと隣に人がいても座る。高校にも個別の自習室があって照明も個別についていた。個人的には閉塞感を感じてしまうが、そういう席がいい人も多いようだ。

- 大きな机だと真向かいに座ると目が合って気まずいので、間仕切りがある方がいいのかもしれない。
- 一人用ソファとかくつろげる場所あっても良い。ゲート内にくつろげる場所があっても良い。
- 椅子は自習室のものの方が柔らかく、反りやすいので座りやすい（中央図書館もそうしてほしい）。
- 椅子は高さが調節できるものが良い。
- 椅子を引きずる音を立ててしまうのが気になるので、ローラーになっていると良い。

【照明について】

照明について、より快適に滞在ができるようにするため、館内全体について、また各閲覧席のものについて、意見や要望があった。

- 図書館は本の保管のためかもしれないが暗いイメージがある。２階の学習スペースなど、ぱっと入った印象が暗い。一角だけでも明るいところがあってもよい。
- 照明が白すぎる。目が強くないのか眩しくて疲れる。自宅では黄色い照明をつけている。暖かい色の照明をつけると居心地がよくなるかもしれない。（中略）グリーンゾーンの机は茶色なのでよいが、白い机だと照り返しで眩しい。
- キャレルのライトはLEDにするなど、白色系にしてほしい。

【喫食環境について】

現在、禁止としている食べ物について様々な意見が挙がった。肯定的・

否定的な意見に分け紹介する。

〈喫食に肯定的な意見〉

- 匂いのしない食べ物はここなら食べても良いという場所（があると良い）。
- お弁当を持ってきてもお昼を食べる場所がない。外にベンチがあるが数が少ないし、鳩とかがいて嫌。飲食コーナーがあるといい。食べるところを探すのも面倒なので、できれば図書館の近くで食べたい。
- （4階図書館）ラウンジとグループ学習室の使い分けがよくわからないのでラウンジは飲食可能にするなど差別化してはどうか。

〈喫食に否定的な意見〉

- （上述の発言を受けて）食べるスペースを作るのなら4階よりも2階がよいのではないか。図書館の中を通って4階まで食べ物を持っていくことを考えると、利用者・図書館の双方にとってよくない。自分自身は図書館の中で食べたいと思ったことはない。外にあるベンチがもっとあればよいと思う。
- （喫食について）本が汚れるのが嫌なので、本を読む時はものを食べたりしない。

【その他の要望】

その他の要望についても、主なものを列挙する。

- 図書館は蔵書が膨大すぎて、カテゴリ、分類が初めて来た人や滅多に来ない人には分かりにくい。おすすめの本の企画やコーナーがあって立ち入りやすくするとよい。
- PCがあると便利なので、ノートPC貸出があるとよい。
- 7号館のW Spaceのようにモニターをつけて監視カメラの映像を流し（館内の座席の）混雑状況をわかるようにしてはどうか。W Spaceの利用状況が図書館でわかるのでもよい。
- 自動貸出機があったら便利だなと思う人がいるかも。

- 混んでいると Wi-Fi がつながりにくい。PC を持ってきても、なかなかつながらないのでイライラしてスマートフォンに切り替えて検索している。

C.「アクティブ・ラーニング」について

1　こういった学習スタイルを、普段、授業で求められているか。それはどういった授業か。その場合、どのような施設で行っているか。どのような設備が必要か

アクティブ・ラーニングについては、まず普段の授業でそういった形式が求められているか答えてもらい、詳細を話してもらった。第７表にアクティブ・ラーニングについての質問への回答結果を示した。

第７表　こういった学習スタイルを、普段、授業で求められているか（n＝10）

	選択肢	得票数	得票率
1	「アクティブ・ラーニング」が求められている	8	80.0%
2	「アクティブ・ラーニング」は求められていない	2	20.0%

大半が、普段からアクティブ・ラーニングが求められていると答えた。その内容は、“大学院での授業はすべてディスカッションであり、アクティブ・ラーニングが求められている”、“基本的に予習前提で、先生の質問に答えるソクラテス・メソッド形式が多い”、“ディスカッションをするのはゼミが多い。たまに授業で班に分かれての課題があり、ディスカッションをしたり、グループ・ワークをしたりすることがある”等の発言のように、大学院の授業や学部のゼミでは、基本的にアクティブ・ラーニングが求められている。他には、“教育学部の教職課程の授業でアクティブ・ラーニングについてアクティブ・ラーニングをするというグループ・ディスカッションがあった”、“学芸員や図書館司書の授業では、その場での話し合いなどアクティブ・ラーニングが多いように思う”のように、一部の資格関

係の授業でも求められていた。

しかし、いずれも授業内での取り組みであり、授業外でラーニング・コモンズのような施設で行うアクティブ・ラーニングは、“集まっても面と向かっては、なかなか話さない人も多くて話が進まないので、必要なことだけを確認して、結局終わってからLINEで進捗を報告しあうことが多かった”、“個人作業で進めることが多い。決めることだけはできるだけゼミで決めておいて、後はこのスライドを作ってきて、という形で作業を分担して進める”などの発言が見られ、極力グループ作業を避けて、あえて個人作業に落とし込んで取り組んでいることが多い。また、「アクティブ・ラーニングは求められていない」と答えた者からは、“演習で意見交換をする場面はあるが、発表者の発表に対して2-3人がレスポンスを返して、先生がまとめるという、あまりアクティブとは言えない形である”、“グループ・ワークがあったとしても、集まってそれぞれが言った意見を提出するだけで、結局、一方向にしかなっておらず双方向の意見交換にはなっていない”など、学生がアクティブ・ラーニングとは捉えていない発言も見られた。こういった傾向について次のような発言があり、アクティブ・ラーニングを充実させるという大学の方針に対して、教員も学生も、十分に対応できていないことが示唆されている。

> 早稲田はアクティブ・ラーニングが一般に言われる前から先進的に取り組んできたように思う。ただ教員は、わせポチ[12]、Twitterなどのツールをうまく使いこなせていない。授業のグループ・ディスカッションは、数こそ増えたが、昔も今も変わらない。ゼミ形式ではすでに導入されており、大教室での講義では導入しようとして失敗しているという印象だ。

> （上述の意見を受け）学生もアクティブ・ラーニングが身に付いていない。大学だけの問題ではなく、（高校までの）もっと前の段階での

問題なのかもしれない。

（アクティブ・ラーニングが実施される）一方で、そういった形式を嫌う教員も多く、学生の知識が０であることを前提とした講義型の授業もある。

一方で、次のような特徴的なアクティブ・ラーニングがあることも、例として挙げておきたい。

ビデオカメラで動画を撮影しドキュメンタリーを作成する課題があった。編集作業は、編集用ソフトが自分の PC にはなく、コース自習室でしか利用できなかったので、グループで自習室に集まって一つの画像をみながら進めた。

特徴的なアクティブ・ラーニングの授業としては、模擬法廷の授業があり、授業後半で裁判での手続きの話や、証拠収集のやり方などになると、８号館３階の模擬法廷教室にて実践形式でやる。リーガル・クリニックでは、弁護士のもとで、フィールドワークを中心に現場で実際の問題の解決に取り組む PBL（Problem-Based Learning；問題解決型学習）形式の授業もある。

教育法の授業では３人で30-40分の模擬授業を作る課題があった。通常の授業ではあまり求められていないが、GEC（グローバルエデュケーションセンター）の授業ではプロフェッショナルズ・ワークショップなどアクティブ・ラーニングが求められることが多く、議論には（中央図書館の）グループ学習室や W Space を使った。

むろん、学内にはもっと多様なアクティブ・ラーニングが実施されてい

るだろうが、大勢の傾向としては、アクティブ・ラーニングが授業の形態として浸透していると言えないことは事実だろう。いわゆるアクティブ・ラーニングのための施設として、一般的に求められる機能を整えたラーニング・コモンズを形ばかり整備しても、実態にそぐわないことが危惧される。アクティブ・ラーニングに必要な施設に関しても、インタビューでは特別な設備を求める意見はほとんどなかった。上述した特徴的なアクティブ・ラーニングの例以外は、ほとんどが通常の教室で実施されており、必要に応じて机を動かし、PC やプロジェクタを使う程度であった。

2　こういった施設を、中央図書館２階を改修して拡充する計画があるが、このことについてどう考えるか。ラーニング・コモンズを魅力的なものとするために重要な要素は何だと思うか

最後に、アクティブ・ラーニングを前提とした施設を中央図書館に拡充する計画についての賛否を問い、考えをたずねた。第８表に中央図書館改修の賛否への回答結果を示した。

第８表　こういった施設を、中央図書館２階を改修して拡充する計画についてどう考えるか（n＝10）

	選択肢	得票数	得票率
1	そういった施設の拡充に賛成	2	20.0%
2	どちらとも言えない	7	70.0%
3	そういった施設の拡充に反対	1	10.0%

発言内容はおおよそ、「図書館にラーニング・コモンズを設置することへの疑問」、「現在の図書館の機能が損なわれることへの不安」、「アクティブ・ラーニングの場としては機能しないという懸念」、の３カテゴリに分けられ、その他の考えや要望を「図書館のラーニング・コモンズに求める意見」としてまとめた。それぞれに代表的な発言を「•」で箇条書きにして紹介する。発言の最後に、その発言者が「賛成」、「どちらとも言えない」、

「反対」のうちどの態度を表明していたかを示した。いずれの立場の発言からも、改修に対する不安や困惑があることがうかがえ、どのようにこれらの疑問を払拭できる計画にできるかが課題として浮き彫りとなった。

【図書館にラーニング・コモンズを設置することへの疑問】

アクティブ・ラーニングやそのための施設の必要性は認識しながらも、それが図書館に設置されることには疑問を感じている意見や発言があった。設置そのものに賛成する者からも疑問の声は見られた。

- 「図書館に話しに行く」といったイメージがわかない。図書館でも W Space のように話しやすい環境を整備することの方が良いのか、図書館はラーニング・コモンズを整備してもある程度周りを気にしながら使うような雰囲気の方が良いのか、それはわからない。（賛成）
- 図書館にラーニング・コモンズを設置することには魅力を感じない。図書館のメリットが出るラーニング・コモンズが出てくるのなら別だが、そうでなければわざわざ図書館がラーニング・コモンズを拡充する必要はないのではないか。（反対）
- 今は図書館のグループ学習室の数が少ないので、そこで話し合いをするという意識を持った人が使っていると思うが、７号館に行くと、規模も大きく広いので、勉強しているというよりは友達とただ時間を過ごしたい人や、トランプをして盛り上がっている人がいる。話し合いをする人と、ただ友達と過ごしている人とでは、同じ話すといっても違ってくるので、中央図書館にそういう場が多いのがいいのかはわからない。（どちらとも言えない）
- 自分自身は、グループ学習室で図書館の本を使ってディベートするということをしたことがないし、学部ごとに話せる場所があると思うので、そこでよいのではないかと思う。（どちらとも言えない）

【現在の図書館の機能が損なわれることへの不安】

様々な図書館の変化に対する不安は、どちらとも言えないと考える者から特に多く発言があった。ラーニング・コモンズの重要性は認識し、反対とは言わないまでも、現在利用している図書館の環境が変わり、好ましく感じている学習の場としての雰囲気や環境、機能が損なわれるのではないかという不安が、どちらとも言えないという選択になる一番の原因とうかがえた。

- 図書館にラーニング・コモンズを作ると聞いた時は、すごく不安になった。グリーンゾーンをつぶすくらいなら必要ない。学習コーナーをみても、みんな個人作業でレポート作成などの目的で来ているので、そこは確保したい。友人と数人で来ても、個人作業に入れる雰囲気が今図書館にはある。図書館に来たら私語をつつしまなければならないと思う。ずっと、そういう場が図書館だと思ってきたので、図書館の中で活発に話す緊急性がそんなに高いのかと思う。（どちらとも言えない）
- 確かに人と話しながら勉強できるスペースがほしいという意見はあると思うが、（中略）これが増えるとなると、中央図書館の２階に今ある本棚はどうなるのか、気軽に座れる閲覧席はどうなるのかが気になる。（どちらとも言えない）
- こういう施設に反対というわけではないが、こういう施設を作ることで今ある座席が減るのは嫌だと思う。中央図書館だと期末試験の時期になると混んでいて空いている席がないくらいなので、これ以上、減るのは嫌だ。座席が確保されるのであれば、作ってもよいと思う。（どちらとも言えない）

【アクティブ・ラーニングの場としては機能しないという懸念】

ラーニング・コモンズが設置されたとしてもうまく機能せず、結局ただの自習スペースになってしまうのではないか、という懸念は特に賛成する者から挙げられた。既に学内に W Space が設置されていることも、図書

館があえて利用されることはないのではという懸念に繋がっていた。

- 中央図書館２階学習コーナーの利用を見ていると、テスト勉強などのペア利用が多い。その場で顔を合わせないと解決できないことを話す自習のスペースとしては活用されるのではないか。（賛成）
- 実際にはグループ・ワークの課題が出されてもグループで動いておらずアクティブ・ラーニングが機能していない。場所ができたとしても自習者のスペースとしては充実すると思うが、アクティブ・ラーニングに活用されるというわけではないのではないか。（賛成）
- W Space と同じものが図書館に作られても差別化されないと思う。（中略）中央図書館では、たとえ壁を設けて話すことができるスペースを整備したとしても、話すことは周りの迷惑を考えてやっぱりちょっと気を遣ったり、話しづらい雰囲気はついてまとうのではないか。（賛成）
- W Space はご飯を食べる時に使っている。周りを見渡すと意外にそういう人が多い。勉強しているのかな、という感じでラーニング・コモンズとしての使われ方ではない。今でもグループ学習室は人があふれるほどというわけではないのに、これ以上（議論をするような利用が）増えるのかな、という気がする。（どちらとも言えない）

【図書館のラーニング・コモンズに求める意見】

その他、図書館のラーニング・コモンズに対して求めるルール、利用方法、什器や設備、空間に関する要望について、主なものを列挙する。

- 図書館の仕事で W Space の利用実態を調査した時は、ちょうどドラマの「逃げるは恥だが役に立つ」が流行っていた時で、「恋ダンス」の練習をしている人が多かったが、図書館がそのような場所になると困る。そうならないための工夫としては、音楽を流すのは禁止、長椅子で寝るのは禁止などのルールを作ることが考えられる。長椅子で寝るのは、図書館内なので、携帯電話や資料を見ながら（うつらうつらと）寝るのならよいが、ただ寝るのは雰囲気が悪くなるので良くない。（どちらとも

言えない）

- 今ある機能が制限されるのは嫌だと思う。これから先、よりアクティブ・ラーニングが進むことを見越して拡充するのは重要だと思う。モニター、ホワイトボードなど補助的なものを拡充するのは大切だと思う。（どちらとも言えない）
- 改修が書架を削っての拡充なら反対。モニターやパソコンを入れたり、ルールを見直すなど、今あるスペースを充実させるなら賛成。（どちらとも言えない）
- 今のグループ学習室やラウンジなど、みんなで利用することを前提としたスペースは１人だと利用しづらい。自分は１人での勉強スタイルが多いこともあり、ラーニング・コモンズの拡充によって１人での勉強スペースが減るのは疑問。みんなでする勉強が大学（における学習）でメインなのか自分では納得できていない。（どちらとも言えない）
- 本の量を減らさず、配置を変えてラーニング・コモンズをまとめたり、モニターや Wi-Fi を設置するという改修ならよいが、本は今でも少ないと感じているので減らさないでほしい。（どちらとも言えない）

Ⅳ．結果の考察

Ａ．調査結果の総括

利用者は図書館のラーニング・コモンズに何を求めるのか、という本稿の問いについては、具体的な什器や環境以上に、まず「現在の図書館としての機能を損なわないこと」と、「あくまで学習の場としての雰囲気や環境であること」の二点に集約されると結論付けたい。

既往調査で示した、“ラーニング・コモンズとしての機能は拡充しつつも、静謐なゾーンや旧来の伝統的な図書館の要素や環境は維持して従来からの利用者の期待にも応え、双方の機能を共存させる”(3)ことを絶対の条件とし、そのうえで図書館としてのラーニング・コモンズとしては“ただグループ

利用率や発話率が高い賑やかな空間ではなく、図書館が醸し出す知的でアカデミックな落ち着いた雰囲気のもと、身近にある図書館資料を最大限に生かし、調査・研究課題に対するグループによる熟議が行われる空間”[(2)]とする本改修の方針は、おおよそ支持される調査結果になった。

インタビュー調査から、利用者の多くは図書館にラーニング・コモンズを積極的に求めているわけではないが、その重要性や必要性を一定に認識していることがわかった。しかし、改修により現在の図書館のあり方が変わることに対して不安や困惑を感じており、その根底には、大学で推進されているアクティブ・ラーニングそのものへの理解が教員・学生ともに不十分で、ラーニング・コモンズを活用する学習スタイルが学生たちに根付いているとは言い難いという事実が存在した。Ⅲ章Ａ節１項で示したように、アクティブ・ラーニングが求められると思われた発表・プレゼンテーションの課題も、アウトプットの形が異なるだけで、グループではなく個人ワークの延長として取り組まれていることがその一例である。図書館の機能が変わること以上に、従来の雰囲気や環境が変わることへの抵抗感が強くあることは、Ⅲ章Ｃ節２項の結果からうかがえた。また、本調査からは、各学部・研究科の自習スペース、その他にサークルの部室といった思いがけない場所も、ラーニング・コモンズとしての役割を果たしていることがうかがえた。ラーニング・コモンズと同様の機能を果たしている既存施設との棲み分けを意識せずに、一律にアクティブ・ラーニングに求められる設備を図書館に拡充しただけでは本質的な意味をなさないだろう。単に新しい自習スペースが増えるだけとなり、ただ話をしながら盛り上がる場所となる可能性も否定できない。

こういった様々な不安の払拭に努めつつ、図書館のラーニング・コモンズとして独自の意味を持たせるために必要な要素は、本調査を通じて得られた示唆より大まかに以下の五点にまとめられる。

１）静かに集中して学習ができる場所、時に一人になれる学内での居場所

として、図書館が果たしている他の場所では代替できない機能は維持する。

2）利用者個々の利用行動や環境への多様な選好に応じることができるよう、機器の利用可否なども含め、適切なゾーニングを行い、様々な利用ニーズを想定した席を設ける。

3）図書館のラーニング・コモンズでは、あくまで学習の場としての雰囲気や環境が維持され、調査・研究課題に対するグループによる熟議が展開されているようにする。

4）図書館のラーニング・コモンズでの学習は、周りに人がいることがむしろ好ましく、必要に応じて話をすることができ、他者の学習の様子から気付きを得ることができる環境とする。

5）人からの情報収集を容易かつ積極的に行うことができる場として、ラーニング・コモンズに人が集い交流を図ることができるよう機能させる。

上述した五点目の要素に補足すると、本調査結果から、学部学生・大学院生ともに学習や研究のための相談ができる人が学内に少ないことがうかがえ、人からの情報収集が容易かつ積極的に行える場として、ラーニング・コモンズに人が集い交流を図ることができるよう機能させる意味は大きいと推測した。その証左として、2017年春学期より中央図書館の学習コーナーに配置した大学院生の図書館ラーニング・アシスタント（LA）に対して、学部学生から日々多くの学習相談が寄せられ、先輩である大学院生に様々な質問、研究に関する相談ができる場として機能している[(6)]。人的な情報源に対する利用者からのニーズは確かなものと考えられ、ここに図書館職員も含め有機的に様々な人が集い、時に利用者間でも相談や情報交換ができる場が実現すれば、その意義は大きいだろう。

中央図書館改修計画は、これらを実現できるような空間設計やゾーニング、什器の選定やルール作りに努め、Ⅲ章Ｂ節３項、Ｃ節２項で挙げら

れた意見は、すべて議論の俎上に載せて検討を行った。その結果、1）から5）を実現させるための具体的な改修方針と方策を、それぞれ以下の通りとした。

1）館内に散在するグループ学習可能なエリア（オレンジゾーン）を集約し、入退館ゲートから2階と3階に及ぶ広範なエリアをラーニング・コモンズとして整備する。加えて、従来の閲覧席・書架エリア（グリーンゾーン、ブルーゾーン）とラーニング・コモンズはガラス遮音壁で物理的に区切ることで、遮音壁の奥にはこれまでと同じ、一人で静かに集中して学習ができる環境が維持されている形とする。
2）従来のゾーニングのルールを見直し、機器利用を認めるゾーンを増やす一方で、これまでのルール以上に静かに集中して資料を利用するための閲覧室を新たに設けるなど、様々な利用ニーズに応えられるようにする。ラーニング・コモンズ内にも、さらに自由闊達な議論が可能なように周囲を遮音壁で区切ったグループ学習室を複数設置する、単独利用や立ち寄り利用が可能な個人席を多数設けるなど、多様な利用方法が共存できる設計とする。
3）ロビーの荘厳な雰囲気を引き継いだ、学習の場として相応しい空間となるようにする。他の利用者の学習の妨げとなりうる利用や度を超した発話は、ルールで制限する。調査・研究課題に関するグループ利用を活性化させる什器を設置する一方で、学習の場として相応しくない利用が懸念される什器、例えば、一般的なラーニング・コモンズにはよく見られる、寝転んで利用できるソファ席、大人数で利用できるボックス席といった什器は、中央図書館では設置を避ける。
4）エリアを区切る遮音壁や、ラーニング・コモンズ内で学習室を区切る遮音壁はすべてガラスとし、他者の学習の様子が見渡せる設計とする。ラーニング・コモンズ内は見通しを良くするため一般書架等の既存什器は移設し、個人利用を想定した席にもキャレルは設置せず、前後左

右での対話を前提とした机や椅子の配置とする。

5）ラーニング・コモンズ内に、図書館職員のレファレンスカウンター、図書館 LA のサービスデスク等を配置し、利用者が必要に応じて学習支援などの人的サービスを受けられるようにする。その他にも、人が集うきっかけとなるよう、新着図書架や小規模展示を行う書架を設置、図書館から情報を発信するイベントや、様々な人との交流を図るイベントを定期的に行うスペースを整備する。

B．インタビュー調査についての総括

館内利用を質的に調査することを試みた、本インタビュー調査について総括する。

本調査では、グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析のように、インタビュー調査で得られた発言を整理・分析したうえで特定のカテゴリを見出し、ラーニング・コモンズに対する利用者の認識と図書館が好まれる要素・要因に関する新たな理論を導くまでには至らず、単純な結果報告にとどまっている。しかし、図書館に対する意識やニーズ調査として、インタビューにより情報を得ることは有効であり、利用者調査として、観察調査やアンケート調査に並行してインタビュー調査を実施する意義が確認できた。

本調査は半構造化インタビュー形式を採り、一部はグループ・インタビューで実施したが、グループによるインタビューの有効性が強く感じられた。同質な参加者を集めてフォーカス・グループを構成することで、単独のインタビューよりも他者の発言から気付きを得た発言が引き出されること、参加者間での議論や対話から重要な指摘が導かれるなどの効果が本調査でも見られた。同様の調査は、都合の許す限りフォーカス・グループ・インタビューを実施した方が、よりリッチなデータが得られるだろう。

一方で、あらかじめ質問事項を設定した今回のインタビューでは、より慎重に質問設計を行い、質問数を絞るべきだった。具体的には、本調査で

は、図書館の機能とアクティブ・ラーニングに対する質問で設問を分けたが、結局両者で双方に触れたほぼ似通った発言がされることになった。質問の意図は異なっても、結果として得られる回答が重複する可能性、質問の意味の重複などの可能性も十分に考慮すべきであった。

調査結果の分析に当たっては、発言者の所属等の属性も踏まえた分析は行わなかった。しかし、学生の専門とする学問領域によって学習への取り組み方、アクティブ・ラーニングやラーニング・コモンズの捉え方に差があることは傾向として掴むことができた。今後の調査では、発言者の属性についても分析の視点として加えるべきである。

本調査は、現在の利用者の意向を改修計画に強く反映させる目的のため、中央図書館のヘビーユーザーである学生10名を対象とした。しかし利用者調査としては、普段図書館を滅多に使わない学生、アクティブ・ラーニングに精通した教員・慣れ親しんだ学生、研究者目線の発言が期待できる対象にもインタビュー調査を行えば、もっと多様な結果が得られたであろう。

おわりに

本稿執筆時点で改修工事は進行中であり、真にユーザー志向の検討がなされたかどうかは、出来上がったものへの利用者の評価を待ちたい。同時に、改修後の中央図書館において追跡調査を行い、改修の効果の検証を図書館として続けるものとしたい。

最後に、インタビュー調査に参加いただいた皆様に、結果の報告が遅れたことをお詫びするとともに、改めてご協力に対し心より御礼申し上げる。

注・参考文献

(1) 早稲田大学中央図書館、開館以来の大改修：学生や研究者が集う“図書館ならでは”のラーニング・コモンズエリア拡大. 2018年７月13日. https://www.waseda.jp/library/news/2018/07/13/5340/, (参照2018-08-09).

(2) 稲葉直也. 大学図書館評価指標としての館内利用量の有効性：中央図書館・戸

山図書館・W Space の館内利用量比較. 早稲田大学図書館紀要. 2018, no.65, p.50-91. http://doi.org/10.20556/00056349,（参照2018-08-09）.

⑶　稲葉直也. 図書館はなぜ利用者に好まれるのか：中央図書館新ゾーニングの検討に向けた利用者アンケート調査報告. 早稲田大学図書館紀要. 2017, no.64, p.33-73. http://hdl.handle.net/2065/00052331,（参照2018-08-09）.

⑷　谷奈穂, 竹内茉莉子, 池尻亮子, 丸茂里江, 庄司三千子, 國本千裕, 白川優治. 図書館における学生の行動とその行動に関係する環境の要素：フォーカス・グループ・インタビューによる探索的調査. 大学図書館研究, 2016, vol.104, p.55-66. https://doi.org/10.20722/jcul.1436,（参照2018-08-09）.

⑸　調査に関する基礎的な事項は、次の質的研究手法に関する文献を参考にした。
Strauss, Anselm L., Corbin, Juliet M. 質的研究の基礎：グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順. 第 2 版, 操華子, 森岡崇訳. 東京, 医学書院, 2004, 396p.
戈木クレイグヒル滋子. 質的研究方法ゼミナール：グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ. 東京, 医学書院, 2005, 212p.

⑹　中央図書館有償学生スタッフは、2017年度から中央図書館ラーニング・アシスタント（LA）となった。図書館 LA についての詳細は次の記事を参照。稲葉直也. 早稲田大学図書館におけるスチューデント・ジョブ創出の取り組み：図書館ラーニング・アシスタント（図書館 LA）設置とその効果. ふみくら. 2018, no.93, p.4-6. http://hdl.handle.net/2065/00056734,（参照2018-08-09）.

⑺　長谷川敦史.「早稲田大学図書館ボランティアスタッフ LIVS」発足の経緯と今後の学生協働. ふみくら. 2014, no.85, p.10-11. http://hdl.handle.net/2065/44831,（参照2018-08-09）.

⑻　早稲田大学の中長期計画 Waseda Vision 150では、教室での一方的な講義主体の授業形態から、演習・ゼミを主体とする学生参加対話型教育や、フィールドワークも活用したプロジェクト型教育への移行を核心戦略の一つに据え、そういった授業形態のことを「対話型、問題発見・解決型教育」と呼んでいる。詳しくは次の URL を参照。http://www.waseda.jp/keiei/vision150/core/04.html,（参照2018-08-09）.

⑼　早稲田大学では、アクティブ・ラーニングを支援し、多様な学習スタイルへの可能性を提供する「ラーニング・コモンズ」の整備と充実を進めており、その一環で整備された複数人での学習を目的としたスペースを「W Space」と呼んでいる。詳しくは次の URL を参照。http://www.waseda.jp/wpo/facilities/wspace.html,（参照2018-08-09）.

⑽　インタビュー調査当時の中央図書館は、私語厳禁かつ電子機器類の使用も禁止し静謐な学習環境を保ったブルーゾーン、静謐な環境を保ちつつも電子機器類の

使用は認めたグリーンゾーン、ラーニング・コモンズとして会話や議論が可能なオレンジゾーンの三つにゾーニングされていた。

⑾　第６表に示した各場所や施設は、それぞれ⑽にあるようにゾーニングされていた。４－７、16はオレンジゾーンで、４にはインターネット接続可能な備付のPCが30台設置されていた。３、９、10はグリーンゾーン、その他の場所や施設はブルーゾーンまたはブルーゾーンと同等の利用が認められていた。

⑿　早稲田大学情報企画部が提供する、双方向型授業を促進するためのウェブ版クリッカーのこと。教員の出題に対し、学生はスマートフォンなどの端末から回答し、その結果がリアルタイムに教場に表示される。詳しくは次のURLを参照。http://www.waseda.jp/navi/services/system/eclicker.html,（参照2018-08-09）.

（いなば　なおや　利用者支援課）
（てぃむそん　じょうなす　アジア太平洋研究センター
*2017年５月まで利用者支援課）
（ゆかわ　あや　利用者支援課長）

参考資料　インタビューシート

大学における学習と中央図書館利用に関するインタビュー調査

図書館利用者支援課

図書館の利用資格	1.学部____年 2.大学院生 M・D____年
図書館の利用頻度	1.ほぼ毎日　2.週に 4-5 回　3.週に 2-3 回　4.週に 1 回 5.月に 1-2 回　6.年に数回　7.ほとんど使わない

問１　大学での学習について質問します

1-1	普段、授業でどういう課題が出ているのか、またそれについてどういう学習方法をしているのか、教えてください。	
1. 授業の予習・復習	2. レポート・論文作成	3. 試験
4. 発表・プレゼンテーション	5. その他の調査や研究	6. その他（　　）
詳細：		

1-2	普段、授業期間中に学習する時間が長い場所はどこか、教えてください。また、それはなぜですか。			
1. 大学内の施設	1-1.図書館・読書室	1-2.W Space	1-3.コンピュータルーム	1-4.サークルの部室・たまり場
	1-5.所属研究室	1-6.学部・研究科の自習スペース	1-7.空き教室	1-8.学内の飲食施設
	1-9.その他（　　）			
2. 大学外の施設	2-1.自宅	2-2.公共図書館	2-3.友人の家	2-4.学外の飲食施設
	2-5.その他（　　）			
詳細：				

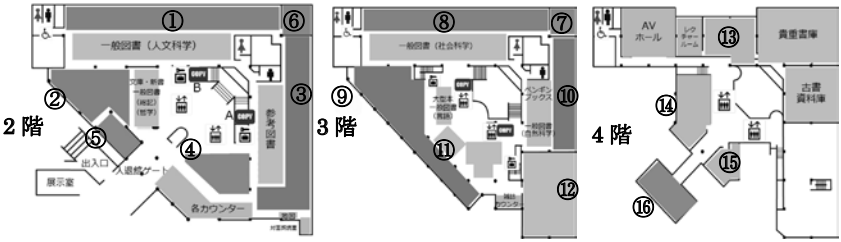
1-3	授業の課題に取り組む時に必要な情報をどこから得ているか、教えてください。	
1. ウェブページ	2. ウィキペディア	3. 自分で買った本／雑誌等の資料
4. 友人・知人から借りた本／雑誌等の資料	5. 図書館の本／雑誌等の資料	6. 授業のテキストや配付された資料
7. 図書館のデータベース	8. 家族／友人	9. 大学のクラスメイト
10. 大学の先輩	11. 教員	12. 図書館員
13. その他（　　）		
詳細：		

問２　中央図書館の利用についてご質問します

2-1	普段、中央図書館をどのような用途で利用しているか、教えてください。	
1. 資料の利用	2. 資料を借りる	3. 電子ジャーナルやデータベースの利用
4. 授業の予習・復習	5. レポート、論文作成	6. 期末試験等の勉強
7. 資格試験等の受験勉強	8. その他の調査や研究	9. 備付インターネット PC の利用
10. グループ学習・ディスカッション	11. 図書館員に質問・相談する	12. 空き時間を過ごす
13. その他（　　）	14. あまり使わない	
詳細：		

2-2	具体的にどのような利用をしているのか、教えてください。あるいは、あまり利用しない理由を教えてください。

2-3	中央図書館内で特に気に入っている場所や施設があれば、教えてください。



①2 階閲覧席(ブルー)	②2 階閲覧席(ブルー)	③2 階閲覧席(グリーン)	④学習コーナー	⑤2 階グループ学習室 A
⑥2 階グループ学習室 B	⑦3 階グループ学習室 C	⑧3 階閲覧席(ブルー)	⑨3 階閲覧席(グリーン)	⑩3 階閲覧席(グリーン)
⑪新聞・雑誌コーナー	⑫バックナンバー書庫	⑬特別資料室	⑭AV ルーム	⑮複写・マイクロ資料室
⑯4 階図書館ラウンジ	⑰1 階研究書庫 閲覧室	⑱地下 1・2 階 閲覧個室	⑲地下 1・2 階研究書庫閲覧席	⑳その他（　　）
詳細・気に入っている理由など：				

2-4	あなたが考える、こうであれば図書館に行きたくなる、もっと居心地がよくなるというイメージを教えてください。 また、具体的に設備や環境をこうしてほしいという要望があれば、教えてください。

問３　「アクティブ・ラーニング」についてご質問します

3-1	教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等、能動的な活動を取り入れた学習スタイルを「アクティブ・ラーニング」と言います。 ・こういった学習スタイルを、普段、授業で求められていますか。それはどういった授業ですか。 ・その場合、どのような施設で行っていますか。どのような設備が必要と思いますか。			
有無		「アクティブ・ラーニング」が求められている		「アクティブ・ラーニング」は求められていない
理由・詳細：				

3-2	「アクティブ・ラーニング」を推進するため、複数の学生が集まり、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」をラーニング・コモンズと言います（文部科学省定義）。中央図書館では各グループ学習室、学内では W Space が代表的なラーニング・コモンズの一種です。 ・こういった施設を、中央図書館 2 階を改修して拡充する計画がありますが、このことについてどう考えますか。 ・ラーニング・コモンズを魅力的なものとするために重要な要素は何だと思いますか。					
賛否		そういった施設の拡充に賛成		どちらとも言えない		そういった施設の拡充に反対
理由・詳細：						